

令和7年度 社会科 授業改善推進プラン

大田区立大森第一中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・基礎的な知識を確実に定着させるため、単元ごとに確認テストを行い、理解度を把握した。
- ・社会科に対する興味関心を高めるため、ICTや新聞記事などの教材を活用し、考えさせる時間を多く設け、学習内容に対する興味・関心を引き出す授業展開を目指した。

(2) 課題

- ・全学年とも習熟度の差が大きく、家庭学習の習慣化ができていないため、知識が定着していない。
- ・習得した知識・技能を活用し、自ら考えたり表現したりする力に課題がある。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和7年度結果	令和6年度結果	令和5年度結果
第1学年	知識・技能、思考・判断・表現ともに区平均正答率を下回っている。特に、思考・判断・表現の基礎的な内容に課題が見られる。		
第2学年	知識・技能、思考・判断・表現ともに区平均正答率を下回っている。特に、思考・判断・表現の基礎的な内容に課題が見られる。	全ての観点に関して、区平均正答率を下回っている。特に、思考・判断・表現に課題が見られる。 (第1学年時)	
第3学年	知識・技能、思考・判断・表現ともに区平均正答率を下回っている。特に、知識・技能の基礎的な内容に課題が見られる。	全ての観点に関して、区平均正答率を下回っている。特に、知識・技能の観点に課題が見られる。 (第2学年時)	知識・技能に関しては、ばらつきはあるが、区平均正答率と差はない。しかし思考・判断・表現の数値は区平均正答率を下回っている。 (第1学年時)

(2) 分析（観点別）

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
基礎的な知識の定着に課題が見られる。特に地理的分野や近代以降の歴史的分野が弱点である。	資料を基に考え、表現する力や、意見を文章にまとめる力に課題がある。	データなし

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
区平均正答率を下回っている。特に歴史分野全般に課題がみられる。	複数の文章や資料から必要な情報を取捨選択する力に課題が見られる。	データなし

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
区平均正答率を下回っているが、歴史的分野においてはおおむね区平均正答率に近い定着率の分野もある。地歴公ともに基礎的な知識の定着を図っていく必要がある。	文章や資料から必要な情報を取捨選択する力に課題が見られる。	データなし

3 授業改善のポイント（観点別）

（1）第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
単元ごとに小テストを実施し、基礎的・基本的な知識の定着を図る。単元の終わりには振り返りを実施し、得た知識を活用する機会を設ける。	各小単元に応じた疑問を提示し、複数の資料から読み取れる予想や自分の考えを事前に記述させることで社会的事象を幅広く考察していく基盤を養う。また、自らの意見を伝え、他者の意見に触れる機会を充実させる。	単元振り返りシートを活用し、第1時で「単元を貫く問い」を設定し、予想を立てさせることで見通しをもって取り組めるようにする。単元の終わりでは学習成果を振り返り、まとめる機会を設けていく。

（2）第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
単元ごとに小テストを実施し、基礎的・基本的な知識の定着を図る。単元の終わりには振り返りを実施し、得た知識を活用する機会を設ける。	複数の資料から読み取れる予想や授業の狙いに即した問いに対する自分の考えを事前に記述させることで社会的事象を幅広く考察していく基盤を養う。また、自らの意見を伝え、他者の意見に触れる機会を充実させる。	単元振り返りシートを活用し、第1時で「単元を貫く問い」を設定し、予想を立てさせることで見通しをもって取り組めるようにする。単元の終わりでは学習成果を振り返り、興味のある事象をさらに調べ、まとめる機会を設けていく。

（3）第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
単元ごとに小テストを実施し、基礎的・基本的な知識の定着を図る。単元の終わりには振り返りを実施し、得た知識を活用する機会を設ける。	複数の資料から読み取った情報を組み合わせて考察する力を養う。毎授業でねらいを示し、それに対して自らの考えを表現する機会を充実させる。	単元振り返りシートを活用し、第1時で「単元を貫く問い」を設定し、予想を立てさせることで見通しをもって取り組めるようにする。単元の終わりでは学習成果を振り返り、まとめる機会を設けていく。